



令和7年1月8日 第9号
江戸川区立下鎌田小学校
校長 黒澤 義和

明るい未来のために今を大切に生きる

校長 黒澤義和

新年、明けましておめでとうございます。令和7年、西暦2025年、関東地方では好天に恵まれ穏やかな年明けとなりました。保護者・地域の皆様におかれましては、ご家族で和やかなお正月を過ごされたことと存じます。一方、去年の元日に発生した能登半島地震から1年が経ちましたが、まだまだ不自由な生活を強いられている方々が多いという報道を目にして大変心が痛みました。今年の干支は「巳」、へびが脱皮するところから巳年には、「新しい自分に生まれ変わる。」「幸せな未来をつかむ。」といった意味があるそうです。本年も子供たちの健やかな成長のために、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たし、一体となって取り組んでまいりたいと存じます。



<建設が進む新校舎 2025.1.7 撮影>

さて、日本のお正月と言えば、お雑煮、おせち料理、たこ揚げ、コマ回し、はねつき、…。昨年12月25日の2学期終業式でも子供たちに、日本の伝統文化に触れる機会を大切にしてほしいと話しましたが、私が小学生だった昭和40年代半ば～50年代初め、お正月の遊びと言えばたこ揚げ、コマ回しから、時は昭和～平成～令和と移った半世紀あまり、日本のお正月もずいぶん変わってきたことを改めて感じるとともに、未来への期待と不安を覚えたお正月でした。そんな心理が生まれるきっかけとなったのが、去年の流行語大賞になった「ふてほど」の基のテレビドラマ「不適切にもほどがある!」です。昨年1月～3月に放送され話題になりましたが、自称テレビっ子である私はなぜか見逃していて、年末にまとめて再放送されていたのを見ました。時は昭和61年（私が新採の年）、主人公の中学校保健体育教師で野球部顧問の小川市郎は、生徒への暴力・暴言当たり前の超スパルタで「地獄の小川」と恐れられていた。そんな小川先生が2024年にタイムスリップしてしまう。セクハラ、パワハラ、マタハラ…ハラスメントになることを気にして、言いたいことも言えない2024年とのギャップに戸惑いながらも徐々に2024年という未来に順応していくというお話です。ご覧になった方もいらっしゃると思いますが、どんなことをお感じになったことでしょうか。ちなみに、SNSで視聴者のこの番組に対するレビューを見てみると、「昭和の良さが前面に出て今の時代の息苦しさを感じたが、昭和は昭和で生きづらさもあったんだと思った。」など、今、そして未来を考えるきっかけになった方もいらっしゃるようです。私も昭和生まれの人間ですから、「昭和は良かったな。それに比べて今は生きづらいな。」と感ずることもあります。しかし、最終回で昭和61年に戻ってきた小川先生が、子供たちにこう言います。「あなたたちが生きる未来も悪くない。」私は、この言葉にまるで尻バット（お尻をバットで叩く暴力のことで、このドラマでも小川先生が野球部員に対して愛の鞭として行っていた。私自身も中学校野球部時代先輩からされた経験がある。）をされた時のような衝撃を受けました。そして、こう思うのです。「明るい未来のために、今を大切に生きよう。」と。主人公の小川先生は、昭和61年から9年後の阪神・淡路大震災で亡くなってしまおうという設定だったので、またタイムマシーンで過去からいらっやらない限り、お会いすることも無いと思いますが、未来を生きる子供たちが、小川先生が思ったように悪くない未来を作っていけるよう、与えられた使命を全うしようと思います。

折しも写真のように、新校下鎌田小学校のシンボルとなる新校舎の建設が5月下旬の完成を目指して、急ピッチで進んでいます。令和7年巳年の特徴である「幸せな未来をつかむ。」ためにも一日一日を大切に歩んで参ります。そして、いつかタイムマシーンで未来に行って、悪くない未来と言える未来になっているか検証してみたいと思います。

【今月のあいさつ標語】

本校では今年度、子供たちが元気でさわやかな挨拶ができるよう全校で取り組んでいます。夏休みの選択課題として「あいさつ標語」に取り組んだ児童の作品の中から、今月は4年生の作品を紹介します。

- あいさつは みんなをつなぐ 合言葉
- あいさつは 初めていえる 自己紹介
- 元気よく あいさつ交わす しもかまた

